

～突撃★ドメーヌ最新情報！！～

◆VCN°12 ピエール=オリヴィエ・ボノーム

生産地方：ロワール

新着ワイン2種類♪

AC トゥーレーヌ・テゼ 2018 (白)

2018年は、ブドウがかつてないほど早熟で、収穫日の判断が非常に難しい年だった。南向きの斜面にあるテゼは特に日当たりが良く、収穫が少しでも遅れるとブドウが完熟しすぎることを熟知しているボノームは周りが通常通り9月半ばまで収穫を待つ中、酸のバランスを頼りに思い切って8月30日に収穫を開始した！ボノーム曰く、テゼの収穫を8月に行ったことは今まで一度もなく、直前まで判断に悩んだが、結果的に酸とアルコールのバランスの取れたワインに仕上げることができたので満足しているとのこと。醸造面では、ブドウの窒素不足により発酵が最後まで終わらず、4g/Lと少し糖が残ってしまったが、逆にこのフルーティーでほんのりとしたやさしい甘みが、酸とミネラルの苦みを優しく包み込み、スムーズな飲み心地の良さを演出している！いつものテゼよりもみずみずしく、すっと体に染み入るようなとてもキュートなワインだ！

VdF ラ・プロビリエール 2018 (赤)

2011年に初リリースを果たし、今回7年ぶりのリリースとなるラ・プロビリエール！ボノームが所有する最も樹齢の古い畑だ！2012年から2017年までは霜や日照り、ブドウの病気の被害により、ほとんど収量が確保できなかった…。今回もミルデューの被害により25hl/haと決して収量は多くないが、辛うじて4樽仕込むことに成功した。ワインは果肉の赤いタンチュリエのガメイが入っているため、見た目はほぼ真っ黒で、一見味わいが重たそうな印象を受けるが、実際アルコール度数が12.5%とそれほど高くなく、味わいも果実味がとてもしなやか！ボノーム曰く、2018年はブドウに酸を残すことでワインが重くならないよう細心の注意を払い、早めに収穫を試みたのだそうだ！ただ、さすがに100年を超えるヴィエーユ・ヴィーニュの、特に2018年は収量が少なく中身の凝縮したブドウが取れただけあって、タンニンはまだ若く十分こなれていないので、今飲むのであればジビエや内臓料理などと一緒に合わせるのがベスト！できればあと数年寝かせて、忘れたころに飲むと最高の驚きに出会えるような…そんな長熟が期待できるようなワインだ！

ミレジム情報 当主オリヴィエ・ボノームのコメント

2018年は、ミルデューの猛威がありガメイやピノなど一部被害に遭ったが、白は総じて品質・収量に恵まれた当たり年だった。冬は暖冬で春の芽吹きは早かった。開花は順調。6月から天候が崩れミルデューの猛威にあうが、それ以上にブドウの房が多かったため、大きく収量が落ちることはなかった。7月の終わりから乾燥した天気が続く。一時水不足が心配されたが、結局冬と春に降った雨のストックがあったおかげで辛うじて難を逃れることができた。収穫日は例年よりも2～3週間早い。収穫したブドウはきれいだったが全体的にリンゴ酸が少なく、発酵の際ボラティルに注意が必要だった。

「ヨシ」のつ・ぶ・や・き

今回ボノームが毎年ワインを出展するアンジェの LES PÉNITENTES (レ・ペニタント) に参加する前にドメーヌを訪問し、蔵やヴァンクүүлなどまだ瓶詰めされていない2019年の新酒を一通り確認した。2019年のワインの印象は、どれもアルコール度数が高くボリューム豊かだが、骨格のある酸があるため味わいにメリハリがあり重たさを全く感じさせない！今から仕上がりがとても楽しみなワインばかりだった！



写真① ヴァンクүүл・ヴァンキュのラベルをデザインしたジェローム！

試飲に夢中になっていると、どこからか怪しい影が近づく気配を感じ、振り向いて見ると白髪で髪がぼさぼさのジェロームがグラスを持って立っていた。(写真①) ジェロームと言えば、あのヴァンクүүлの看板ワイン「ヴァンクүүл・ヴァンキュ」のエチケットデザインの生みの親だ！昔、彼はティエリ・ピュズラの従業員で、その時は良く会う度に会話を交わしていたが、ある日突然辞めてからはしばらく何の音沙汰もなかった。彼との再会は本当に久しぶり。相変わらずいつもほろ酔い気分なところは当時と全く変わらない。彼に近況をたずねてみると、何と彼はワインの仕事ではなく、現在は鉄と木を使ってオブジェを作るアーティストとして活躍していた！

今はこのボノームの倉庫のワインストック用の足場櫓を手掛けていて、その休憩中に一杯ひっかけがてら一緒に試飲に参加したという訳だ。(写真②) ちなみに、このボノームのオフィス机も彼の手がけた作品。(写真③) 彼曰く、鉄のほとんどはくず鉄を集め加工し、そこに丈夫な木の板を合わせて全て彼一人の手で仕上げたのだそうだ。他にも、彼はボノームのドメーヌのらせん階段、ティエリのアパートのキッチン、テーブルなど数々の作品を作り上げている。元々父親が溶接工の仕事を行っていて、幼いころから彼は鉄に接していたという。だが、当時は父親の仕事に憧れもなく、今こうして同じように鉄にかかわる仕事を行うとは夢にも思わなかったそうだ。「振り返れば俺にとってワインは趣味でしかなかった。今この年になって父の遺伝子が自分のアーティスト魂が覚醒した！」と笑いながら語るジェローム。いつか彼が有名になれば、ヴァンクүүл・ヴァンキュのロゴもものすごい価値になる日が来るかも!?(2020.1.29.ドメーヌ突撃訪問より)



写真② ボノームの倉庫を鋭意作業中！



写真③ 鉄と木の取り合わせが斬新！ボノームの机

※弊社HP「フォト・ギャラリー」より、カラーでサイズの大きい鮮明な写真をぜひご覧くださいませ